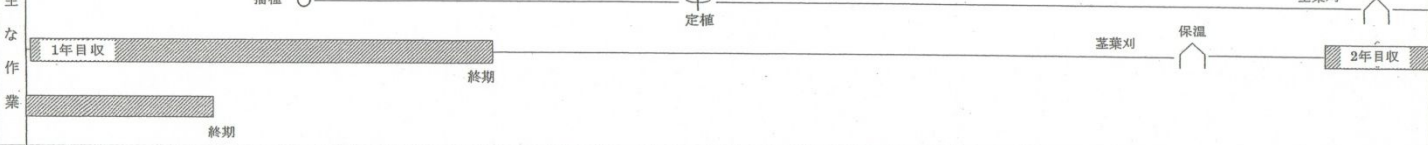


にらの栽培



<春まき冬どり栽培>



1. 品種 スーパーグリーンベルト、グリーンロード
サンダーグリーンベルト、ワンダーグリーンベルト

2. は種
【一般播種床播き】
は種期 春まきは3月中～4月上旬、秋まきは8月下～9月上旬。

は種床 本圃10aの根株を養成するためには、は種床2aぐらい必要である。

床作り 苗床は肥沃で排水良好、雑草発生の少ない場所を選び、秋冬に耕し、は種1ヵ月前に1a当たり堆肥300kg、苦土炭カル20kgぐらい施して土壌酸度を矯正し、は種10日前頃に1a当たり窒素、りん酸、加里を成分量で2kg程度施用しておく。(例:a当たりBB333号15kg)。床幅は100～120cmとし、春まきの場合はポリマルチをして地温を高めておく。

は種量法 10a当たり1.5～2g
条間15cm、種子間隔1～0.5cmに播く。種子が見えない程度に土をかけ、わらを被覆してから十分に灌水する。

苗床管理 からの発芽適温は20℃前後であり3月まきの場合はトンネル+マルチ、4月10日以降に播く場合はマルチ、秋まきの場合は風雨防止のために、寒冷紗トンネルをかける。

3. 発芽後の管理
マルチ、稲わら 是種後10～15日で発芽するので80～40%発芽した頃にマルチ、稲わらを除去する。

乾燥防止 トンネル育苗ならびに秋まきは高温乾燥状態になるので適宜灌水する。

中耕・追肥 除草をかねた軽い中耕、土寄せを2～3回する。本葉2～3枚の頃、1a当たり窒素と加里をそれぞれ300g程度を追肥する。

4. 施肥
土づくり 堆きゅう肥 10a当たり3,000kg
土壌診断をして、りん酸、塩基類などの養分状態を改善する。

施肥量 10a当たり窒素・りん酸・加里、各30kgを基準とする。

施肥例 (10a当たり)
【冬どり】
基肥重点 BBにらグリーン886 (8-8-6-苦土2) 360～380kg
有機質肥料主体 (基肥)BBマックス有機666 (6-6-6) 320～360kg
(追肥)BBマックス有機666 (6-6-6) 80kg×2回

2年株で夏どりをする場合には、4月以降の株養成期に窒素成分で4kg×8回程度追肥する。なお、肥効調整型肥料(Nロング70日タイプ)を使用すれば、4月の1回施肥で済む。

5. 定植時期
春まき冬どり栽培では6月中旬～7月上旬
春まき夏どり栽培では6月中～下旬 (苗の大きさは草丈25cm葉数5枚、分けつ2本程度のものがよい)

栽培密度 幅1.5mのベットの条間30cmの5条、株間20cmで3株6茎程度を、15cmの深さに植付ける。株元への土寄せは少なくする。うねの方向は東西がよい。

6. 定植後の管理
土寄せ 定植の20日後及び40日後に中耕を兼ねて土寄せする。

雑草防除 土寄せが終わってからロックス100～150gまたはナブ乳剤150～200mlを散布する。

乾燥防止 わらまたは堆肥を敷く。

倒伏防止 生育旺盛な場合は追肥をおくらせる。9月中旬頃に十分に土寄せする。倒伏の恐れある時は葉先を10cmぐらい刈りこむ。

花蕾の摘除 1年株には少ないが、2年株は7月下旬に抽たいするから、早く摘除して、根株の充実を図る。

刈り捨て 一番刈り予定期の25～30日前に茎葉を地際から刈り取って捨てる。

7. 病害虫防除
(1) 育苗床は病害予防のため、高さ10～15cm程度の平床とし、冠水しないようにする。発芽後は寒冷紗等で被覆すると、育成促進だけでなく害虫の予防になる。パイプハウス等で雨よけすれば病害予防にもなる。

(2) 本圃の連作障害を回避するには、輪作体系を組んでいくことが望ましく、にらでは水稲との組み合わせが効果的である。

(3) 土壌病害対策は、苗からの持ち込みをできるだけ防ぐことが基本で、予防に重点をおく。特に紅色根腐病の持ち込みに注意する。

(4) 雑草防除は、除草剤に頼らず中耕によって発生を抑制する。

(平成19年6月現在)

対象病害虫	使用農薬名	適正使用基準
白斑葉枯病	トップジンM水和剤	1000倍・刈取直後1回
	アミスター20フロアブル	2000倍・14日前/2回
さび病	バイレトン水和剤5	400～600倍・14日前/2回
	ストロビーフロアブル	3000倍・前日/3回
アブラムシ類	モスピラン水溶液	4000倍・前/3回
	ジメエート乳剤	2000倍 14日前/3回
ネギアザミウマ	アグロスリン乳剤	2000倍・7日前/3回
ネダニ	トクチオン細粒剤P	6～9kg/10a・定植時/1回
	スプラサイド乳剤40	2000倍・80日前/1回

適正使用基準: 収穫前日数/使用回数

